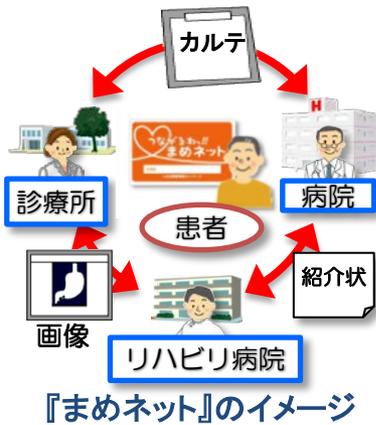


齊藤中国総合通信局長が『まめネット』(しまね医療情報ネットワーク)を視察



平成26年2月24日(月)、齊藤中国総合通信局長は、島根県の「しまね医療情報ネットワーク」(愛称:『まめネット』)を視察しました(出雲市所在のNPO法人「しまね医療情報ネットワーク協会」を訪問)。「まめネット」は、島根県がネットワークと共通基盤を整備(インターフェースを公開)し、その上に、各医師会や医療機関等がアプリケーションを構築し、サービスを提供する地域医療情報ネットワークシステムです。総務省の「健康情報活用基盤構築事業」(日本版EHR)をはじめ様々な国の支援事業や実証実験等を経て、NPO法人が管理運営主体となり、平成25年1月から、全国に先駆けて全県規模の医療情報ネットワークとして稼働しています。

《『まめネット』の特徴と今後の取り組み》

今回の視察では、島根県医療政策課の石飛厚志氏、NPO法人「しまね医療情報ネットワーク協会」総務経理部長の太田かなえ氏、(株)テクノプロジェクト(TPJ)統括部長の長谷川榮司氏の3氏から、『まめネット』の概要、成果と課題等の説明を受けました。その中で、『まめネット』の特徴として、●インターフェースを公開しているため、連携カルテ等の各サービスがベンダーフリーで対応できること、●医師が使い慣れたビューアで画像を閲覧することができること等があるとの説明がありました。また、運営主体のNPO法人は通信事業としてサービスを提供するビジネスモデルになっており、島根県下にとどまらず、全国にサービスを展開することも想定されています。



齊藤局長(右)が、島根県、NPO法人の担当者と意見交換

その後、地域診療所である「すぎうら医院」の杉浦医師(NPO法人「しまね医療情報ネットワーク協会」理事)を訪問し、『まめネット』を使ったカルテの閲覧や診療予約の実例を視察しました。杉浦医師からは、「『まめネット』を使うことによって、診療の質もスピードも格段に高めることができる」との説明がありました。



杉浦医師(中央)からシステムの説明を受ける

《“ベトナム版まめネット”の実現に向けて》

『まめネット』の視察後、(株)テクノプロジェクト東京支社長の深田倍生氏から、同社がベトナム国内で進めている“ベトナム版まめネット”の取り組みについて、ODAのパイロット事業として取り組んできたこれまでの経過や今後の展望のほか、エピソードとして、「これまでは診療所から保健当局に定期的に提出する紙のレポートをバイクで運んでいたが、これをネットワークの掲示板機能に代替することにより大幅な負担の軽減ができた」と現地の人から大変喜ばれたことなど、苦労話も交えてお話を伺いました。



(株)TPJ深田氏(中央)からベトナム進出の経過と展望を伺う

中国総合通信局では、超高齢社会を迎え、『スマートプラチナ社会』の構築を実現するため、地域における様々な取り組みを応援していきたいと考えています。